旭川市

井上靖記念館報

平成24年７月１日発行／第12号

井上靖オープン

書斎・応接間

昭和三十二年、井上靖が五十歳の時に東京・世田谷の一画に建てられた旧井上靖邸の書斎・応接間が、ご遺族からの寄贈を受け移転され、井上靖が生まれた五月六日に、生誕地旭川でオープンしました。

『敦煌』、『蒼き狼』、『おろしや国酔夢譚』、『孔子』など数多くの名作が生み出され、平成三年に亡くなるまで三十年以上にわたり創作の場であり続けた書斎には、自著などを含め、およそ八百冊の書籍や実際に執筆の際に使っていた机、日常愛用していた灰皿などの品々を当時のまま再現し、展示しています。

また、国内外から訪れる来客の社交の場であった応接間には、壁一面に造りつけられた書棚に、日本の歴史や古典文学、中国の歴史や文学関係の書籍、郷土史関係の書籍、東洋の美術関係の書籍など二千冊を超える書籍、陶芸家・河井寛次郎作の壺を始めとする美術品の数々を在りし日の写真とともに展示しています。

いずれも、創作活動の様子や、当時の面影を感じることのできる特別な空間となっております。

施設概要

書　斎　十七㎡

応接間　四十七㎡

開　館（書斎・応接間部分）

平成二十四年五月六日

展示品紹介

書斎・応接間の展示品について、ご紹介します。

書斎・応接間への通路には、世田谷の家について書かれたエッセイ、井上靖にとって特別な花であった井上邸の庭に植えられていた紅梅の写真、井上邸の平面図、書斎・応接間についての説明パネルを展示しています。

通路を抜けると正面が応接間、左側が書斎です。

書斎・応接間への通路

河井寛次郎作の抹茶碗

書斎には、造りつけ棚の一部を展示スペースとして、現在は、亡くなった際に受章した「勲一等旭日大綬章」や文壇ゴルフで優勝したときの銀杯、愛用していた河井寛次郎作の抹茶碗などを展示しています。（なお、この展示は随時入れ替える予定ですので、変更となる場合があります。）

応接間には、今号で浦城いくよ氏に寄稿いただいたペルシャ絨毯が敷かれ、初めてのヨーロッパ旅行土産のヴェネチアングラスの置物などを展示しています。

ヴェネチアングラスの置物

また、井上邸は今年の春に公開された映画『わが母の記』のロケセットになりました。当館に移転される前の書斎・応接間でも撮影が行われ、数々のシーンに登場しています。

書籍を含めた三千点を超える展示品と井上靖が過ごした空間をぜひご覧ください。

井上靖　書斎・応接間移転オープン関連イベント

井上靖　書斎・応接間は、五月三日からプレオープンとして公開し、様々な記念イベントを行いました。

オープンの一週間前まで、ラウンジから眺める景色には雪が残っていましたが、書斎・応接間の公開を祝うかのように暖かい日が続き、オープン時には桜が満開となりました。

三日と四日は、ピアノとフルートによる井上靖原作の映画『わが母の記』メインテーマ等を演奏するミニコンサートを行いました。

フルートの柔らかな音色とピアノの調べに多くの来館者が足を止め、音楽に聴き入っていました。

五日は『本覺坊遺文』で千利休を描き、お茶を愛した作家でもある井上靖にちなみ、表千家旭川地区青年部との共催により「赤い実の洋燈茶会」を行いました。

茶会のしつらいがなされた当館ラウンジには、和装の方たちが多く訪れ、いつもとは全く別世界の雰囲気の中、参加者にお茶を愉しんでいただきました。

また、この日旭川に到着した井上家の皆様にもお茶を愉しんでいただくことができました。

正式オープンした六日は、記念式典及び記念講演会を行いました。記念式典では、たくさんの市民が見守る中、西川将人旭川市長からの挨拶、井上家へ感謝状の贈呈、テープカット等を行いオープンしました。

その後、井上靖ご長男の井上修一氏による「井上靖と住まい」と題した記念講演会を行いました。井上靖が生まれてから終の棲家であった東京・世田谷の自宅までの軌跡を追う講演会で、聴講した参加者は作家井上靖の一面を知ることができたのではないかと思います。

プレオープンからオープン日までの四日間、ミニコンサート、茶会、講演会と多様なイベントを開催し、七七八名の方に来館いただき、当時の応接間の賑わいを彷彿とさせるようでした。

その中で、書斎・応接間への関心から様々な質問をいただき、期待の高まり、関心の高さを窺うことができ、また、移転された書斎・応接間の展示だけでなく、常設展や企画展もじっくり見ていただきました。

今後も皆様の期待に応えられるよう、より一層書斎・応接間を通して井上文学に親しんでいただく環境づくりを心がけていきたいと思います。

表札・絨毯

浦城　いくよ
（井上靖記念館特別相談役・井上靖長女）

この度、井上家から寄贈いただいた井上邸の表札とペルシャ絨毯について、寄稿いただきました。今後、寄贈いただいた他の物についても、寄稿いただく予定です。

表札

もう三十数年以上前になると思うが、当時他人の家の表札を盗むと受験に合格するという変な風潮があった。

当時、父も有名な人気作家であったため、今でいうお受験シーズンになると表札が何度も盗られるので両親は大変困っていた。木製の表札に父が筆で「井上」と楷書で丁寧に書いたものが、大きな石の門構えの右側にかけられていた。あまりにも盗られるのでそのうち名刺を張り付けていた。

お隣には結婚間もなく奥さんを亡くされた中年の男性とその母親が大きなチャウチャウ犬と共に住んでいた。町内会長を長くされており、隣に住んでいる老作家夫婦のことは絶えず気にかけて下さっていたのだろう。ある日、私が両親の家に行くと見慣れない表札がかかっているのにすぐ気が付いて尋ねると、父も母もニコニコして「お隣の〇〇さんが作って張り付けて下さったのよ」という。毎日字を書いて仕事をしていた父には、書体に好みもあったと思うが両親はそれに関しては一言も言わなかった。

銅版に自分で書かれたのか行書風の独特な字で「井上」と書いてある。それも何枚も作って持って来て下さったという。ムチャクチャに親切なお隣さん製の表札に代わってからは受験生に持って行かれることもなく、その後は何十年も大きな門にはめ込まれたまま馴染んでいった。そして旭川市の井上靖記念館にまで持ち込まれ、書斎や応接間の入り口にかけられ、写真と共に展示されている。

絨毯

三十四、五畳はある応接間の半分近くをしめて敷かれている大きなクラシック絨毯について語ってみたい。

一九七三年に父は平山郁夫氏や考古学者の江上波夫氏らとイランへ旅行をした。この絨毯はこの時イランのテヘランで、アナビアンという当時世界的に有名だった骨董屋の主人から求めたものと父から聞いている。

アナビアンの自宅に招待されたとき、広い応接間の隅の方にきれいな絨毯が敷いてあるのが目に留まって「このような絨毯が欲しい」と云ったら「ない」、「同じような模様のものが欲しいので探して欲しい」「なかなかない」という返事だった。しばらくイラン旅行をしてテヘランに戻ってきたとき、またアナビアン宅に寄って「少しくらい新しいものでもよいから欲しい」「ない」。それからトルコ旅行の後再度寄ってまた「欲しい」と云ったら、ついに熱意にほだされて「そんなに云うならこれを持って行きなさい」と云われて商品でないものを手に入れたのです。当時百五十年くらい前のものだったようで、現在では二百年近く前のクラシック絨毯である。

「百五十年くらいではまだ古い方でない。あと五十年は踏んでくれ。そうすればもっとよくなる」と云われたそうです。スリッパなどではなく、靴や馬車や自動車にわざわざ踏ませるという話を聞いたことがある。イランの絨毯はトルコやアフガニスタンのものに比べて色が鮮やかで派手と云われているが、踏むことによって毛が締まり、色が落ち着いてくるそうだ。

かつて私は写真家の並河萬里氏の中近東を撮った写真を見たことがある。アトラス模様の華やかな民族衣装を身にまとい、きれいな刺繍のある帽子をかぶった少女たちが絨毯を織ったり、女性が川の土手に干したり、川で洗っている写真を鮮明に覚えている。

トルコの田舎ではぶどう棚の下や、大きな木の木陰などに絨毯を敷き、そこが楽しい応接間となる。ひげを生やした男性たちが、チャイを飲んだり、チェスをしたりしながら一日のんびり暮らしている。一方で女性はと云えば子供を背中に背負ったり、大きな荷物を背中に巻きつけたり、暑いのにイスラムの習わしで黒いスカーフをかぶり、畑仕事や外でパンを焼いたりと忙しく立ち働いているのを私は旅行中によく見かけ、同じ女性として気の毒に思った。

話は元にもどるが、鳥取県米子市にある「アジア博物館・井上靖記念館」にはアナビアン・コレクションがあり、ペルシャ錦を中心に二千点くらいが収蔵されている。この館を作る時、平山郁夫氏や江上波夫氏その他の先生方や母や私もその相談の席に参加していた。この世界的なコレクションを散らばしてはいけない。一つにまとめておかなくてはならないという先生方の強い熱意によって日本に持ってこられ、展示されている。当時私は江上波夫先生に「そんな大事なものを米子などに置いてもよいのですか」と伺ったことがある。先生は「地球規模で考えなさい」と云われた。当時、地球規模でものを考える発想などなかった私には、この一言は深く脳裏に刻まれた。そしてこういう考え方が今では出来るようになった。

米子の「井上靖記念館」には父が亡くなってすぐに父の書斎と応接間をそっくり模造したものが建てられた。応接間の沢山の本も古本屋に依頼して殆ど同じものを同じ位置に並べてある。絨毯だけが簡単には手に入らなかった。建物ができた当時、イラン人の絨毯屋が記念館に出入りしていたので、その人に世田谷の井上の家に来てもらって絨毯を見せ、同じようなものを敷きたいと頼んでおいた。

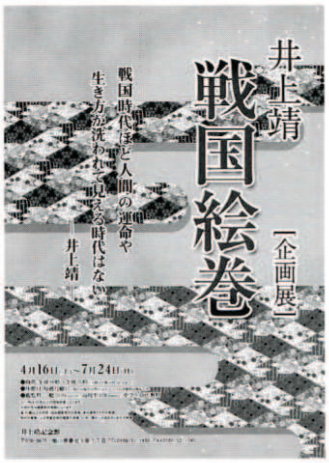
一年位たってから、柄も色も大きさもまったく同じものを持ってきたのにはびっくり仰天した。古い品ではなく新しく作られた物ではあったが、その絨毯屋はイランのテヘランにいる友人の結婚式で友人の家に行ったら敷いてあったという。何百年も前から色も柄も全く同じ絨毯を作り続けているのだと日本に住んでいる私はただただ驚いた。

平成二十三年度　事業報告

企画展

第一回企画展
井上靖　戦国絵巻展

四月十六日（土）～七月二十四日（日）



◆趣旨
井上靖の数ある時代小説の中から「応仁の乱」「関ヶ原の戦い」「大坂の陣」までの戦国時代を取り上げ、この時代に生きた武将や雑兵たち・女性たちの姿を紹介しました。

◆展示の主な内容
①書誌紹介
②群雄割拠の戦国時代
③智将・山本勘助～『風林火山』
④短篇小説における武将たち～『真田軍記』他
⑤乱世に生きた姫たち～『淀どの日記』
⑥井上靖が描く戦国人間模様

◆観覧者数
一般　一二二五人／高校生　四人
中学生以下　二六八人／免除　五八〇人
合計　二〇七七人

第二回企画展
井上靖　最晩年展

七月三十日（土）～十月二十三日（日）

◆趣旨
井上靖が死の前々年に発表した『孔子』は七十万部を越える大ベストセラーになり、この作品で扱った「天命」観は死の直前までこだわったテーマでした。本展では最晩年の作品の数々を紹介し、井上靖没後二十年を偲びました。

◆展示の主な内容
①『孔子』の後は何を？
②晩年の詩業
③親鸞を書きたい
④エッセイ『「観無量寿経」について』
⑤旭川訪問・天命・絶筆
⑥追悼井上靖～新聞記事・雑誌追悼号

◆観覧者数
一般　一四四八人／高校生　八人
中学生以下　一二三人／免除　四五六人
合計　二〇三五人

第三回企画展
井上靖　西域小説展

十月二十九日（土）～二月五日（日）

◆趣旨
井上靖は学生時代から西域に憧れ、多くの旅行記や研究書を読み漁り、西域のイメージを自分の中に作り上げていました。昭和二十五年に発表した『漆胡樽』を始めとし、昭和四十四年発表の『聖者』に至るまでの西域小説をテーマに分けて紹介し、魅力を探りました。

◆展示の主な内容
①西域への憧れ
②西域からの贈り物
③西域に生きた人々
④匈奴との抗争
⑤モンゴルから長城を越えて
⑥傾国の美女

◆観覧者数
一般　二八〇人／高校生　六八人
中学生以下　四一人／免除　五九三人
合計　九八二人

第四回企画展
井上靖　人と文学展Ⅰ

二月十一日（土）～五月二十七日（日）

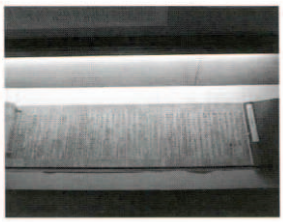
◆趣旨
井上靖の人と文学には幼少年時代の体験が大きく影響しています。本展では、井上靖の誕生から沼津中学卒業までを年譜と写真でたどり、その時代の体験が作家井上靖の人と文学にどう影響しているかを自伝的作品『幼き日のこと』『しろばんば』『夏草冬濤』の表現を通して探りました。

◆展示の主な内容
①靖誕生
②祖母「かの」と暮らした小学校時代
③文学に目覚めた沼津中学校時代

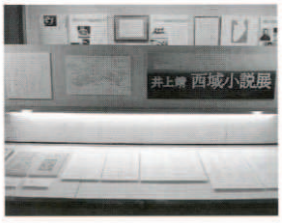
◆観覧者数
一般　九七七人／高校生　四人
中学生以下　一五三人／免除　一〇六一人
合計　二一九五人

企画展展示風景

井上靖　戦国絵巻展



井上靖　最晚年展



井上靖　西域小説展

井上靖　人と文学展Ⅰ

企画展関連事業

井上靖講座

開催中の企画展の見どころの紹介や解説と文学入門を行いました。

第一回　井上靖　戦国絵巻
とき　五月七日（土）
第二回　井上靖　西域小説
とき　十一月五日（土）
第三回　井上靖　人と文学Ⅰ
とき　二月二十五日（土）

自主事業

井上靖　短編小説を読む（全六回）

井上靖の短編小説を取り上げ、朗読と解説を行いました。

第一回『佐治与九郎覚書』
とき　五月二十一日（土）
第二回『魔法壜』
とき　七月九日（土）
第三回『褒姒の笑い』
とき　十月一日（土）
第四回『あすなろ物語』
とき　十二月十七日（土）
第五回『どうぞお先きに！』『くもの巣』
とき　一月二十八日（土）
第六回『僧行賀の涙』
とき　三月十日（土）
朗読　塩尻曜子氏
（井上靖ナナカマドの会会員）
（第一～四、六回）

高橋典枝氏
（おはなし「ぱたぽん」）
（第五回）
講師　当館職員

文学散歩
～東旭川・永山の文学碑巡り～

とき　七月二日（土）
講師　平野武弘氏

快晴の下、東旭川・永山方面の文学碑や句碑・歌碑をバスで巡りました。

午前中は石田雨圃子、松田一夫、土屋文明、西山東渓の碑。午後からは工藤力夫、藤田旭山、塩野谷秋風、新明紫明、阿部みどり女、奥山五有子の碑を鑑賞しました。

講師から、文学碑の前で作者の人物像や句碑・歌碑設立の経緯、作品の解説などが行われました。好天にも恵まれ、参加者は自然の中でゆっくりと文学や地域の歴史、文化などへの知識を深めました。

ひつじのぱたぽん　おはなしのじかん

とき　六月十八日（土）
十一月十九日（土）
講師　高橋典枝氏
（おはなし「ぱたぽん」）

子供から大人まで楽しめる絵本六冊の読み聞かせや紙芝居、エプロンシアター、パネルシアター、ペープサートなど、本の世界を広げる催しを行いました。

パネルシアターでは、井上靖作の童話「銀のはしご―うさぎのピロちゃん物語―」、ペープサートは「ほくろのある金魚」を題材とし、子供も大人も時を経ても色褪せない井上靖の童話の世界に魅了されました。

▲第二回井上靖講座

（第一回）
▼井上靖　短編小説を読む

▲井上靖　短編小説を読む
（第二回）

（第五回）
▼井上靖　短編小説を読む

夏休みおはなし会

第一回
とき　七月二十六日（火）
講　師　旭川おはなしの会の皆さん
第二回
とき　八月三日（水）
講　師　福田洋子氏（こども冨貴堂店長）
　　こども冨貴堂の皆さん

『あかずきん』や井上靖作の『出発』『七月の海』、子供達にとって珍しい絵本など一回目は七作品、二回目は八作品の語りや読み聞かせを行いました。
　語り手の個性豊かなお話や会話形式の読み聞かせで、子供達はお話の世界に引き込まれていました。

ロビーコンサート

とき　九月三日（土）
声　楽　佐々木智美氏
伴　奏　長谷川純氏
朗　読　塩尻曜子氏
　　（井上靖ナナカマドの会会員）
　　中村洋一氏
　　（赤い実の洋燈読書会会員）
　　田中豊子氏
　　（赤い実の洋燈読書会会員）
　　当館職員

「文学と歌曲の調べ」と題して、石川啄木や金子みすずが作詞した歌曲や季節に合わせた歌などの歌唱と井上靖の詩「星闌干」「愛する人に」「母に」などを読み手を替えながら朗読を行いました。
　参加者は開放的なロビーで、心地よい歌声と朗読に耳を傾け、最後には参加者全員で「ふるさと」を合唱しました。
　外の嵐とは対照的に温かい雰囲気のコンサートになりました。

大人のためのおはなし会

とき　二月二十九日（水）
講　師　旭川おはなしの会の皆さん

大人も楽しめる日本の昔話や、絵本等五話のおはなしの語りを行いました。
　台本を持たずに、身振り手振りで語られるおはなしには、参加された方々は引き込まれるように聞き入っていました。

文学講座

第一回
二〇一一・靖没後二十年に

とき　九月十日（土）
講　師　石本裕之氏
　　（旭川工業高等専門学校教授）

第二回
井上靖文学を「読む」
～視点の設定について～

とき　十二月十日（土）
講　師　片山晴夫氏
　　（北海道教育大学教授）

第三回
歴史と和歌と小説と
～『額田女王』をめぐって～

とき　一月二十一日（土）
講　師　伊藤一男氏
　　（北海道教育大学教授）

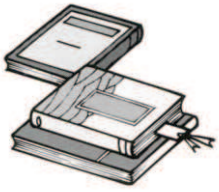
井上靖の作品への理解を深めるため、講師をお招きし、現代文学・古典文学・歴史という多方面からの考察や解説を行っていただきました。
　この講座では、あらゆる作品に描かれた人物像から、井上文学の魅力に迫ることができました。

共催事業

赤い実の洋燈読書会

共催／赤い実のランプふぁんクラブ

とき　毎週土曜日
開催回数　四十回
テキスト
①『氷壁』
②『淀どの日記』
③『わが母の記』



▲夏休みおはなし会

▲第二回文学講座

▲第一回文学講座

▲おはなしのじかん

▲文学散歩

大人のためのおはなし会▼

第三回文学講座▼

ロビーコンサート（朗読）▼

ロビーコンサート▼

夏休みおはなし会▼

平成二十四年度のご案内・・・

企画展

「井上靖書斎・応接間」展
六月二日（土）～八月十九日（日）

「井上靖　人と文学Ⅱ」展
八月二十五日（土）～十月二十八日（日）

「井上靖と万葉の世界」展
十一月三日（土）～一月十三日（日）

「井上靖の作品と新聞記者」展
一月十九日（土）～

講座・講演会

井上靖講座（全四回／六月・九月・十一月・二月）
企画展の解説と文学入門

文学講座（三回）　九月～一月

自主事業

夏休みおはなし会　七月二十六日・七月三十一日

ロビーコンサート　八月下旬

ひつじのぱたぽん　おはなしのじかん　十月中旬

空とぶペンギン　～声の贈りもの～　十一月中旬

大人のためのおはなし会　二月中旬

読書会

井上靖　短編小説を読む（全五回）

赤い実の洋燈読書会（毎週土曜日）
「赤い実のランプふぁんクラブ」との共催読書会

企画展の会期及び自主事業等の開催日は予定となっております。
詳細については、当館までお問い合わせください。
なお、当館ホームページでもご案内しています。
http://city.asahikawa.hokkaido.jp/bunkashinko/inouteyasusi/

平成23年度のあゆみ

□4月16日～7月24日
企画展「井上靖　戦国絵巻」展

□5月7日
第１回井上靖講座　井上靖　戦国絵巻

□5月21日
第１回井上靖 短編小説を読む『佐治与九郎覚書』

□6月1日～9月30日
無休開館

□6月10日
第１回井上靖記念館運営協議会

□6月18日
ひつじのぱたぽん　おはなしのじかん１

□7月2日
文学散歩

□7月9日
第２回井上靖 短編小説を読む『魔法壜』

□7月26日
夏休みおはなし会１

□7月30日～10月23日
企画展「井上靖　最晩年」展

□8月3日
夏休みおはなし会２

□9月3日
ロビーコンサート

□9月10日
文学講座　2011・靖没後二十年に

□10月1日
第３回井上靖 短編小説を読む『褒姒の笑い』

□10月29日～2月5日
企画展「井上靖　西域小説」展

□11月5日
第２回井上靖講座　西域小説

□11月19日
ひつじのぱたぽん　おはなしのじかん２

□12月10日
文学講座
井上靖文学を「読む」～視点の設定について

□12月17日
第４回井上靖 短編小説を読む『あすなろ物語』

□1月21日
文学講座
歴史と和歌と小説と『額田女王』をめぐって

□1月28日
第５回井上靖 短編小説を読む
『どうぞお先きに！』『くもの巣』

□2月3日
第２回井上靖記念館運営協議会

□2月11日～5月27日
企画展「井上靖　人と文学Ⅰ」展

□2月25日
第３回井上靖講座　人と文学

□2月29日
大人のためのおはなし会

□3月10日
第６回井上靖 短編小説を読む『僧行賀の涙』

編集後記

平成22年度から準備を進めてきました「井上靖邸　書斎・応接間」を井上家の皆様を始めとする関係各位のご尽力により、無事オープンすることができました。

オープン時にも、ボランティアの皆さんのご協力もあり、色々な方に支えられていることを改めて実感しました。

今後とも皆様のご協力を得ながら、ますます井上文学の普及や来館者にご満足いただけるように努めてまいります。

職員異動のお知らせ

△転出

嘱託職員	中西	睿
嘱託職員	葛西	由紀
嘱託職員	靏	麻衣子
臨時職員	笠置	知子

▽転入

嘱託職員	平野	武弘
嘱託職員	上田	郁子
臨時職員	新沼	美也
臨時職員	佐藤	史倫

年度別入館者数

年　度	人　数
平成５年	12,703
平成６年	20,385
平成７年	16,599
平成８年	14,893
平成９年	14,639
平成10年	16,832
平成11年	15,848
平成12年	13,486
平成13年	11,450
平成14年	12,475
平成15年	13,496
平成16年	10,077
平成17年	7,772
平成18年	6,331
平成19年	7,267
平成20年	6,740
平成21年	6,003
平成22年	6,085
平成23年	5,830
総入館者	218,911